

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）			
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように	平均											
自分の考えや思いをもち、伝え合える子どもを育成する	基礎基本的な知識、技能の習得、活用により学力の向上を図る。	毎月1回の計算会、書き取り会を実施し計算・漢字の定着を図るが、記録カードに記録し、家庭にも通知する。	定着率85%が達成できたか。また、1回目と2回目の点数の比較を評価観点とする。	担任	年間	既習の計算、漢字を課題として取り組ませる。また、プレテスト等で定着を図る。	3.6	・記録カード実施できなかった。 ・点数の比較までは難しい	3.7	4.3		C	・自学の取組と合わせて、家庭での学習に取り組ませる。	C	・家庭学習の方法をもっと指導する必要がある。子どもも勉強の仕方を分かっていないように思う。			
		全校体制で個別補充指導をする。放課後学習タイムを第2、4水曜日に設定する。3年生以上の児童で計算会、書き取り会において一定以上の点数に届かない場合、補習を行なう。	月・木の「ぐんぐんタイム」と長期休業中の学習会を実施することにより、個別の補充指導を充実させることができたか。	担任	月木のぐんぐんタイム、長期休業中	児童の実態にあった課題を用意して実施する。	3.6									・下校指導、増築のため児童クラブが遠くなり補充ができにくかった。 ・ぐんぐんタイムが実施できなかった。	・増築工事が終わり、児童クラブが学校内にもどったので、放課後学習の充実を図る。	C
		音読や視写、要約（主に5、6年）を取り入れる。	音読、群読、視写に取り組むことができたか。	各教科担任	年間	教科等、学級経営の中で取り組む。	3.9										C	
国語科を中心に基盤作りとしての読む力を育てる		読みの観点を明らかにした授業を行う。	読みの観点を教室に掲示し児童の理解を支援したか。	担任	年間	物語文、説明文の授業の中で実施する。	2.4	・物語文への取組が不十分であった。 ・研究とのズレがあったので、改訂したい。	3.5			D	研究と関連させて、要旨のまとめ方、学び合いの場の設定等に取り組む。	D	・読み聞かせを通して物語文、説明文を理解できるように工夫してはどうか。 ・個別プリント等の工夫はできないか。 ・単語、語彙力の基礎力を上げることが大切。			
		ペア、グループ、学級全体での交流を取り入れる。	授業の中で考えを伝えあったり話し合ったりすることができるようになったか。	担任	年間	物語文、説明文の授業の中で実施する。	4									・場の設定をもう少し工夫する必要がある。	B	
表現力（伝え合う力）を育てる授業づくりに取り組む		「話す・聞く」単元での聞き方のカードや、学び合い学習を取り入れる。また、適切な声の大きさを身につけさせるよう、普段の生活から指導する。	話す聞くの単元では、話し方、聞き方の振り返りをする。（カード等）	担任	年間	学習内容に合わせて振り返りを工夫する。	3	・なかなか身につけなかった。	3.9	3.8	4	C	・校内研究の視点の一つに挙げ、計画的に取り組む。	C				
		生活科、総合的な学習の時間を活用して、表現力を育成する。	年1回まとめたことを発表する場を設ける	担任	年間	保護者、地域、他学年への発表の場を設ける。	3.4										C	
		話し合い活動の充実を図る（学級活動での話し合い仕方の工夫、司会のマニュアル化）。	年2～3回、司会者を立てて話し合い活動を計画する。	担任	年間	話し合いの仕方を提示して行う。	3.1										C	
言葉で伝える力を育てる。		集会活動を活性化するために、感想発表の場や活動の内容を工夫する。	各学年1名は挙手して発表する。	担任	年間	めあてに対するの感想を発表させる。	1.8	・時間がないので、カードで伝えれば良い。 ・全校朝礼の校長先生の話に感想を書いていたが感想が書けるような話をお願いしたい。	3.6	2.8		E	機会を多く持つ方が効果的か、厳選して徹底した方が効果的か検討し、共通理解を図り取り組む。	E	・発表の場は短時間でも確保し、みんなが発表できる方が良い。 ・感想の提出でも良いが、効果的なあり方を検討してほしい。			
		異学年間での感想・意見を伝え合う場を工夫し、感想の交流が図られるよ	音読集会の感想を渡し、昼の放送でも紹介する。	担任	年間	カード、プリントに書いて渡す。	2.5									・書いて渡すようにした。 ・放送委員会の取組がなかった。	D	
		集会活動後における感想等を書かせる場を設定する。	集会後は感想を書く場をもつ。	担任	年間	カード、プリント等を作って用意しておく。	3.3										B	
読書活動を積極的に推進する		図書館を活用した学習指導の充実を図る。	図書館を活用した学習指導を実施できたか。	主任担任	年間	年間指導計画のもとに図書館を利用する。	4	・本を用意してもらった。	3.1	4.4		B		B				
		読書量の年間目標をたて、週末には本を借りるよう指導する。	低学年で80冊、中学年で60冊、高学年で50冊の本を読むことができる。	担任	年間	月ごとの図書館利用状況表と振り返りカードでチェックする。	3.2	・学級での取組に差がある。また、全体的な底上げも必要。								C	・図書館司書、司書教諭、担任の連携を図り、児童の興味を引きつける工夫をする。	
		おすすめの本を選定し、期間限定で学級に置くほか図書委員会の読み聞かせを実施。	年間25冊を目標に、各学年おすすめの本を読ませる。	主任担任	年間	リストにチェックをつけさせたり、ビンゴを企画したりする。	3	・取組に差がある。 ・上手に活用できていない。								C	・期間を決めて、イベント的に取り組む。	
		読書ノートを活用する。	週に1回以上読書ノートを書くことができたか。	担任	年間	定期的にチェックし、指導する。	3.6									C		
		家庭での読書量を増やす。ノーマディア期間に合わせ家読を実施。	保護者アンケートで前年度より肯定的な評価が増えたか。	校長主任	年間	学校便りや図書館便りによって、家庭での読書をすすめる。	2.8	・2月以降、学校だよりで取り上げる。 ・アンケートは実施できなかった。								D	前年度より読書に関しては保護者の肯定的数値は上がっている。引き続き、学校だより等での図書への呼びかけを増やす。	
															・地域の交流センター等にも貸し出し図書があるので利用してほしい。 ・本以外の娯楽も多く、子どもはおもしろい方をとる。どれだけ興味を持たすことができるか重要。親世代が好きだった本を子どもと話し合う（家読）等の機会を増やす工夫が必要。			

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように	平均								
	学校図書館を利用した情報活用能力を育成する。	調べ学習の場として図書館を利用して学習や生活に生かすことができる。	・図書館を活用し、学校司書と連携した学習を学期に1回以上行う。 ・パンフレット等の収集等、環境の整備	担任	年間	図書館を利用する単元を年間指導計画にあげる。	3.3	・本を集めてもらった。				C		C	
	家庭教育力の向上を図る。	中学校のテスト期間にあわせノーメディアデー・角っ子週間に取り組む	学期に1度生活習慣を見直す期間を設ける。	担任	年間	いきいき角っ子カードで定着をめざす。	4	・カードの扱いが決まっていない。				B		B	
	家庭学習の手引きを全児童・保護者に配付し、家庭学習の習慣を身につけさせる。	低学年20分、中学年40分、高学年60分、家庭学習をする。	低学年20分、中学年40分、高学年60分、家庭学習をする。	担任	年間	計画的に宿題を出す。家庭学習の手引で呼びかけ、カードで定着をめざす。	3.6	・手引きを活用できていない。 ・計画どおりにいかなかった。	3.1	4.1		C	・自学への取組と合わせて、手引きの活用を促す。	C	・子どもに何を勉強させるべきか、個人ごとの現状分析があると親もより意識する。画一的な手引きでは不十分ではないかと思う。

学校関係者評価  
・読書習慣定着に努力されているのがよく分かる。大事なことなので、さらに取組をすすめてほしい。  
・様々な工夫は評価できる。数値目標や画一的な対応だけでなく、一人一人にあわせた対応を推進してほしい。特に学力に関しては、子どもの状況が親に分かりにくいのではないかと。目標に対し、どの位置にいて何をすべきか、情報がないと家庭学習も十分進まないと思われる。

学校関係者評価を受け止めた学校としての次年度改善策  
・読書活動については、「つい読みたくなる取組」を工夫して、読書量だけでなく、読書の幅も広げていきたい。そのために、これまでの良い取組を踏襲するだけでなく、司書教諭を中心に図書館環境の充実に努め、子ども達にとって魅力的な取組を考えたい。  
・学力については、国や県の学習状況調査をもとに、取り組んでいる。家庭での学習の仕方について、年度当初に示すだけでなく、学年の実態や個々の状況に合わせて、さらに細やかに見ていきたい。そのためには、担任がしっかりと子どもと向き合う時間が必要となる。その時間の確保に努めたい。

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように	平均								
自分を見つめ、相手を思いやり、望ましい「ふるまい」ができる子どもを育てる。	具体的な「ふるまい」方の指導を重視する。	ふるまいに関する授業や学級だよりを通じて、あいさつ（低学年中心）や相手の名前を呼ぶ時は「さん」等をつける（中・高学年）指導をする。	「さん」等をつけて名前を呼ぶ児童が増えたか。	全教職員	年間	学級会、代表委員会で話し合わせる。学校生活アンケートで振り返りをさせる。	3.1	・高学年に呼び捨てが多いが、低学年まで広がってきている。 ・言い直しをさせた。 ・呼び捨てを低学年が抵抗を感じていない。 ・あだ名で呼び合っている		3.9	3.1	C	・児童自身に話し合わせ、自分たちの課題として捉えさせる。	C	・TPOにあわせた、対応力を育ててほしい。
		4月に、児童会運営委員会による職員室出入りの役割演技を取り入れた発表を、全校朝会の折に実施する。その後、学級で継続的に指導を行う。	礼儀正しく職員室等に入出りできるようになったか。	全教職員	年間	具体的な行動の仕方を示す。（掲示物・手本）その場で評価する。	3	・児童の指導だけでなく、自らについても気をつけた。 ・だいが改善されたが、職員の方が先に挨拶することが多い				C	C		
	あいさつ・返事を重点的に指導する。	あいさつ運動について、学期ごとに強化期間を設定し取り組む。	執行部であいさつ運動について振り返りをしながら取り組み、変化のある繰り返しの活動が継続できたか。	執行部	年間	放送等を利用して全校にあいさつの様子を伝える。	4.5	・運営委員会で取り組んだ。クラスをまわる際は、教員も挨拶してほしい。	3.7			A		A	・昨年度よりポイントが伸びているので、引き続き推進してほしい。
		教職員自らがあいさつをし、積極的に範を示す。	範となるようあいさつができたか。	全教職員	年間	自己評価をする。	4.4	・児童の指導だけでなく、自らについても気をつけた。 ・職員の方が先に挨拶することが多い				B		B	
	認める場を意識的に設定する。	授業において、指名の際の返事を徹底させるとともに、全校集会の折の表彰時の返事を、担任は事前に指導し、高学年から表彰して見本になるようにする。出来た姿を全校に広げるため、いい返事をその場で評価する。	児童の返事についてのプラスの自己評価が80%以上達成できたか。	担任	年間	授業やいろいろな場面で個人的に、全体で指導する。	3.4	・声が小さい。 ・その場での評価が必要である。	3.4	3.6	3.5	C	・日常の指導で、学級での取組を中心に広げていく。	C	
		友だちや自分のいいところを見つめる時間を設定する。	友だちや自分のいいところを見つめる児童が増えたか。	担任	年間	お互いを見つめるコーナーを朝礼時や終礼時、学級活動等に設ける。	4.1			4.2		B		B	
	道徳の時間を大切に、自分を見つめさせる。	子どもたちのよいところを認める場を設ける。	いろいろな場面で児童のがんばりに気づくことができたか。	全教職員	年間	学級で子どもに伝える。掃除や他の場面での様子は、メモ等で担任に伝える。	4.3	・登校の様子など、良い点を伝えるようにした。 ・良いところを担任に伝えるよう心がけた。	3.8	4.5		B		B	
		関連項目に関する授業の確保、充実を図る。	すべての価値項目をバランスよく指導する。	主任 担任	年間	年間計画を検討したり、授業の展開を工夫したりする。	3.7			3.8		C		C	
	保護者との連携を図る。	学校だより・学級だよりを通して、望ましい「ふるまい」について、家庭や地域の啓発を行う。	学校から望ましい「ふるまい」について発信を行うことができたか。	校長 担任	年間	学校だよりに掲載する。学級懇談の話題にする。	2.9	・11月に具体例を掲載。	3.3			D	たよりの話題にしてきたが、保護者に十分伝わっていない現状なので、もっとアピールしたい。	C	・学校だよりが保護者の関心をもっとひけるよう、内容の改善が必要ではないか。 ・子どもが家でふるまいに関して話ができるような取組が必要ではないか。

学校関係者評価

- ・1年生から自転車の正しい乗り方や交通ルールを指導してほしい。危険な場面を何度か目撃した。
- ・伝承していかなくてはならない地域の行事にもっと積極的に参加してほしい。
- ・挨拶等、人として大事なことがしっかりできることは良いことである。

学校関係者評価を受け止めた学校としての次年度改善策

- ・現在は3年生以上の交通安全教室で自転車の乗り方の指導をしている。しかし、3年生でも自転車にしっかり乗れない児童が増加している実状があり、交通安全教室の内容もかえてきている。1. 2年生においては交通安全教室で自転車の指導はしていないが、学校で日頃から話をするとともに、保護者にも呼びかけ危険を回避する能力を高めるようにしたい。
- ・今後も地域行事への参加を呼びかけていきたい。
- ・互いが気持ち良く過ごすための大切なものとして、率先してあいさつを広げていく。

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員 平均	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）		
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように											
何事にも興味をもち、進んで取り組もうとする子どもを育てる。	効果的な評価の工夫を行う	目指す姿を児童に明確に示し、評価する。	目指す姿を学級目標などで明確にし、児童が目指す姿に向け努力し、変容を認めることができたか。	担任各担当	活動の後	自己評価シート、作文、日記	2.7	・学級目標を意識する場を設けなかった ・教科によっては目指す姿を示せなかった。				D	児童自らの気づきや行動を評価し、動機付けと行動化への強化を行なう	D	・目標がなければ、問題に気づくことができず、解決・改善は図れない。目標をきちんと設定することが必要。		
	縦割り班・異学年交流を充実させる。	学習や児童会活動などの成果の発表の場として、異学年交流を行う。	全学年が全校の前で発表し、感想を交流することができたか。	各担当	通年	音読集会 児童集会 学習発表	4.3			3.7		B		B			
		異学年交流を生かした創造的な活動を実施する。	児童会、6年生を中心に縦割り班での活動を実施できたか。	児童会担当 6年部	学期毎	角っ子ハッピータイム	5				A		A				
	学校行事の見直しや体験活動を工夫する。	全校体制で取り組める行事を、工夫しながら推進する。	学級会、代表委員会をもち、めあてをもって、行事に取り組むことができたか。	担任 児童会担当	学期毎	学級会 代表委員会	3.7	・振り返りができなかった				B		B	・よりよい方向を目指し、行事見直しは過去にとられず行なうべきである。		
		体験活動を積極的に取り入れる。	体験活動を学習の中に効果的に取り入れることができたか。	担任	通年	ゲストティーチャー 校外学習	3.5				C	・地域の人材の活用を進める。	C				
	話し合い活動の充実を図り、話し合う技能を身につけさせる。	話し合いで身につける力について、学年ごとの指導内容を明確にする。	話し合いで身につける力の系統表を見直し、活用することができたか。	研究部	3学期	系統表の訂正版作成	1	・話し合いに視点を当ててつけるべき力の重点指導ができていない。				E	つけるべき力を明らかにし、授業研究を通して全校で取り組む。	E	いの時間を設けたらどうだろうか ・話し合いの先進事例（テーマ、進め方）を調査したらどうか。		
	委員会活動の充実を図る。	自主的・創造的な取り組みを工夫する。	各委員会が活動の紹介をしたり全校児童への働きかけしたりする場をもつことができたか。	委員会担当	通年	掲示板、昼の放送などでの委員会発表	4.2	・児童の自主的活動が見られた			4.2		B		B		
授業の改善工夫を行う。	児童の興味関心を高める授業づくりを行う。	児童の興味・関心を高める授業づくりを行うことができたか。	担任	通年	アンケート	3.2				4.0			C	・授業評価を行ない、改善につなげる。	C		

学校関係者評価

- ・実施できているので、振り返りと改善ができればさらに伸びる。
- ・減らず、なくす、やめることに努力と勇気を。

学校関係者評価を受け止めた学校としての次年度改善策

- ・児童が目的意識を持って取り組めるようにめあてを示して、活動が終わったら振り返りの時間をとり、個々の変化が感じられるようにしたい。
- ・目的に合わせて行事や活動を見直し、「やめる」ことも含めて考えたい。

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員 平均	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）		
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように											
教育課程・学習指導	時数確保に取り組む。	年間予定時数を把握し、計画的に教育課程を実施する。	予定時数の100%を確保することができたか。	主任担任	年間	週ごと、月ごと、学期ごとに時数を集計しながら実施する。	4.4					B		B			
	年間計画の見直しと改善を図る。	効果のあった実践や課題のあった実践が次年度につながるようにする。	変更点や実施後の気づきを記入できたか。	担任	年間	実施後に年間指導計画に記入する。	2.3	・記入できなかった。				D	年度末の見直し、年度初めの年間計画確認を教務部がリーダーシップをとり実施する。夏に新しいのができたので、年度末に赤で記入したい。	D	・学校の努力、改善を期待したい。 ・PDCAの「スケジュール化」が重要。		
	評価を適切に実施する。	単元ごとの評価基準を児童に示し、児童の振り返りカードに反映させる。	単元ごとの評価基準を参考にして、児童の様子を把握することができたか。	担任	年間	単元評価を随時行い、指導に生かしたり、学期末の評価の参考資料にする。	3.2					C		C			

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように	平均								
		計算会や書き取り会については、個人票を作成し個別指導の資料として活用する。	学期末や年度末の振り返りを行い、取り組み方を検討できたか。	主任 担任	学期末	学級ごとに振り返りをして、次学期の取り組み方を検討する。主任は全体を見て、検討を行う。	2.7	・個人票の必要性の理解が不十分で、個人票の作成に至らなかった。				D	個人票をつくる意味を見直し、より効果的な方法を考える。あるいはひな形を教務から示し実効性あるものにする。	D	・学力向上を目指すなら、個々の数値化と現状把握を家庭と共有すべきである。
	学力調査の分析結果を指導に生かす。	県学力調査、全国学力調査の結果をもとに、夏季休業中に改善策を講じ、2学期の指導にいかす。そして、3学期の検証テストによって、成果を明確にする。	課題の改善を目指す取り組みができたか。	担任	年間	学期ごとに振り返りをする。	3.3				C		C		
	教材・教具を整備し、活用しやすくする。	教材備品の点検を行う。	教材備品管理マニュアルに沿って教材備品の点検をすることができたか。	担当	夏季休業中	管理・保管場所・使用方法を明示する。	4.3	・保管場所、使用方法を明示したい。 ・点検、整理したが不十分であった。				B		B	
キャリア教育	キャリア教育についての共通理解を図り、学校全体で取り組む。	キャリア教育全体の周知と共通理解を図り、実践と活動を進める。	全体計画をもとに、児童の実態に即したキャリア教育が実践できたか。	主任 担任	年間	振り返りをする。	2.6				D	担当を中心に計画的に行なう。全体計画、夏に集約した意見を反映させ改善する。	D	・手法（実施すること）がゴールにならないようにしてほ	
		家庭・地域社会・関係機関・異校種との連携を図る。	ゲストティーチャーを招いたり、体験活動を取りいれたりすることができたか。	担任	年間	年間1回は実施する。	3.3				C		C		
組織運営	学校評価を活用できる体制を整える。	関係部会を必要に応じて開き、取り組みの経過について話し合う。	関係部会を必要に応じて開催し、振り返りを後の取り組みに生かすことができたか。	各部主任	年間	時間を必ず設定する。全体に伝えることは職員会や職朝で伝える。	2.9	・不確かな情報やうやむやなこともあるので話し合うべきである。 ・大きな行事前には部会を開き共通理解に努めた。				D	校長がビジョンを明確に示す。重点を絞って効果的なものにする。職員会の何週目にかに分掌部会を設定し、見直す機会をつくる。	D	・校長のビジョンが職員に伝わることは大事である。連絡会議等の検討をお願いしたい。
	学校の重点施策を全員で実行する。	中期重点目標を自己評価シート、学級経営案、各自の経営等に反映させ取り組む。	中期重点目標を各自の経営案に取り入れ、毎学期振り返りを行なう。	各部	年間	学期末に取り組みの反省と次学期の取り組みの方針を話し合う。	3	・各自で振り返っているが、話し合いはできなかった。				C		C	
	情報管理を適切に行う。	情報管理に関する校内規定を見直し、周知する。	校内規定の見直し、周知することができたか。	情報担当	今年度中	共通理解を図る。	1.3	・明確な規定がない。 ・USBをさしたままの離席に注意する。 ・まだ共通理解できていない。				E	規定を早急に整備し、年度当初に共通理解を図る。	D	・個人情報の観点からも、フォルダー、USB等の管理の徹底を急いでほしい。 ・マイナンバーの管理等も含め、管理レベルを上げる必要がある。
	学校会計を適切に処理する。	明確で迅速な会計処理を行う。	公費・私費の会計を適切に処理し、年度末に報告することができたか。	主任	年間	年度末に決算報告する。	4.7	・3月予定				A		A	
研修	校内研究に関する環境整備を行う。	全員で環境整備をする。	子どもの作品、学習の記録、今月の詩を掲示する。	全職員 研究部	年間	言葉の広場、音読集の足跡を月1回のローテーションを決めて実施する。	3.9	・同じものが貼ってあることがあった。 ・低学年昇降口もかえた方がよい				C		C	
	校内研究に関する研修を通して、指導力の育成を図る。	単元計画やユニバーサルデザインに基づいた指導案について具体的に協議する	年2回指導案を示して研究授業を行う。	担任 専科	年間	研究授業の度に行う。	3.5	・1回実施 ・ユニバーサルデザインの意味を再確認する必要がある。				C		C	
		授業後検討会を持つ。	年2回指導案を示して研究授業を行う。	担任 専科	年間	研究授業の度に行う。	3.4	・1回実施				C		C	
	校内研究以外の校内での研修は年間を通して計画的に実施する。	分掌主任を担当とし実施する。	どの分掌も年1回は行う。	各主任	年間	職員会を通して	3.3	・保体部の研修は難しい。 ・できなかったところもある。				C		C	
		研修方法を工夫する。	報告だけでなく参加型も年1回は取り入れる。	各主任	年間	職員会を通して	3.4	・できなかったところもある。				C		C	
	交流・連携	校種を超えた交流を行う。	保育園との交流を行う	1、5年を中心として交流を行う。	低学年担任	年間	町探検、一日入学など	4.8				A		A	
江津中学校と交流する。			中学校の先生を招いて授業をしていただく。	6年担任	年間	教科学習において	1	・調整が難しい。				E	実施効果を再検討し、子どもたちにとってより有効な交流を検討・実施する。	E	・課外行事となるが、町づくりの行事に中学生と一緒に参加できる環境作りをしてはどうか。
市内各高校と交流をする。			年1回行う	管理職	年間	各学習活動に応じて実施	2	・キャリア教育を通じ一部高校と交流。				D		D	
施設・設備	定期的に安全点検をする。	毎月15日を安全の日と定め児童・職員の安全意識を高める。	・月1回安全点検と、朝の放送等を利用して児童への呼びかけを行う。 ・環境委員会において安全に関する活動を推進する。 ・学期ごとに1回、縦割り班で安全点検をする。	保体部 全職員	年間	安全点検シートの記入と児童への校内放送で呼びかけ。月1回、職員作業を行う	3.1	・児童の意識付けができていない ・月1の職員作業はできていない、時間的に厳しい。 ・毎月の点検はほぼできた。児童参加型は難しい。 ・日にちが定まらず、遅いときがあった。 ・後半スムーズになった。 ・職員作業でだいぶきれいになった。			C	・自分たちでできるところから改善していく。	C		
生徒指導	問題行動への組織的な対応が取れるようにする。	チームを作り、連携して対応する。	生徒指導部が中心となって、チームを作り、連携して対応できたか。	全職員	通年	関係職員で役割分担	3.7	・チーム作りまでではないが、主任・教頭等を中心に連絡、相談体制ができていた。 ・生徒指導部の重点が分らない ・ぎりぎりまでわからないことがあ			C	・重点を明らかにして取り組む。	C		
保健管理	年間を通じた保健指導・管理を行う。	学校保健計画に則り、保健管理を推進する。	学校保健計画に則って、保健管理を推進できたか。	保健部	通年	学期毎に評価	4				B		B		

中期重点目標	短期重点目標	目標達成のための計画（成果・取り組み指標）		スケジュール			職員 平均	課題・問題点	保護者	児童	地域	自己	改善策	関係者 評定	学校関係者評価（コメント）
		具体的方策	評価観点	だれが	いつ	どのように									
特別支援教育	個別の支援計画を整備する	コーディネータの発信をもとに、特別支援学級の教育支援計画を作成する	保護者や関係機関と連携して、支援計画が作成できたか。 （1年生は2学期から、他学年は1学期から）	特別支援コーディネーター担任	通年	学期毎に	4.7	・支援計画、指導計画、もう少し項目を削れないか。				A		A	
		4.6					・資料作成、春休みの面談は負担が大きい					A			
安全管理	安全に気をつける自己管理能力や危機回避能力を育てる	集団下校を毎月1回実施する。	児童の安全意識が高まったか。	全教職員	年間	各地区担当・担任が引率して、危険箇所を把握し、指導する。	4.4	・月1集団下校、低学年付き添い、通年通じてできた。				B		B	
		交通安全教室を実施する。	実施できたか。	全教職員	年間	低・中・高学年で実施する。	4.8					A		A	
		避難訓練を実施する。	学期毎に、実施できたか。	全教職員	年間	学期ごとに火災・地震を想定した訓練を実施する。	4.8	・課題意識を持ってできた。				A		A	

学校関係者評価を受け止めた学校としての次年度改善策

- ・今年度の取組を踏まえ、学校経営のビジョンをもとに、各分掌の主任が中心となって学校全体で取組が行われるように、職員会のシステムを再構築する。
- ・主任を中心に毎年同じように行われる行事や活動を目標に照らして見直し、改善を図る。（場合によっては廃止する。）子どものために何が必要かを多くの職員がかかわりながら考え、優先すべき順位を決めていく。
- ・取組にあった評価ができるように、学校評価シートの見直しを図る。
- ・担任ができるだけ多くの時間、児童とかかわり指導や支援ができるようなシステムと雰囲気をつくる。また、心に余裕をもって、丁寧で誠意の感じられる対応ができるようにフォローする。

学校自己評価シートの評価について

個々の教職員による「具体的方策」の評価観点

5：十分に達成できた    4：問題や課題があったが、達成できた    2：課題や問題点が多く、努力したが達成できなかった

学校全体としての「短期重点目標」に対する評定

- 4, 5～5, 0    A：極めて優れている
- 4, 0～4, 5    B：非常によい
- 3, 0～4, 0    C：良い
- 2, 0～3, 0    D：課題がある
- 2, 0未満    E：課題が多く速やかな改善が必要

○学校運営に関する学校関係者総合評価【自己評価シートに内容を含め、学校運営全般に関しての評価】

評 価  
**C**

- ・保護者に学校が頑張っている姿をもっと知らせ、協力していこうという気持ちを持っていただけるよう努力することが大事であり、さらに推進してほしい。
- ・現校長の赴任1年目で大変だったと思うが、来年度、目標達成のためにさらに努力をお願いしたい。
- ・組織が変わっている途中なので、これから発展すると思われる。工夫していることは評価できる。
- ・目標、PDCAサイクルが重要。学力向上について、個々に落とし込んだ対策がないと、保護者も何をして良いか分からない。現状把握と共有がまず大事だと思う。